

## 編集 後記

編集委員会のメンバーも半分が入れ替わり、私は再任組ですので編集後記の執筆は3回目となりました。本号は原著が1本、研究ノートが2本、資料が1本となっています。高齢者の社会的問題、感染症への認知に関する問題、禁煙対策の問題と、公衆衛生上重要な問題を扱った論文が4本そろいました。いずれも読みごたえのある内容です。

日本公衆衛生雑誌は1954年（昭和29年）に創刊された60年以上の歴史がある学会誌です。投稿本数は例年多く、学術的なレベルも高くなっています。それ自体は非常に素晴らしいことなのですが、どうしても採択率が低くなり、特に原著論文での採択は厳しくなっています。いきおい採択までの著者と編集委員会とのやりとりが数回に及ぶことも珍しくありません。私は本誌以外にも幾つかの学会誌の編集委員をしていますので、投稿論文数が少なくて困っている雑誌や、かなり教育的なアドバイスを採択までしなくてはならない雑誌も扱っています。そうしますと、もう少し本誌でも多く論文を拾えないものかと正直思ってしまう。雑誌の頁数に限りがある中では仕方ないことは分かっているのですが…。例えばLancetがLancet Oncology, Lancet Neurology, Lancet Infectious Diseasesなど子雑誌を産み出したように、海外トップ雑誌だと分野ごとに暖簾分けをするケースもあります。日本公衆衛生雑誌も精神保健編とか看護学編とかいったようにカテゴリー別に暖簾分けをするのも面白いなと勝手に夢想しております。本誌のステータスがさらに高くなっていくことが前提でしょうが。

編集委員会一同、公明性・公正性をしっかりと確保しながら査読を進めてまいりますので、投稿なさる方も査読をなさる方もご支援お願いいたします。きらりと光る国内随一の学会誌にしていきたいと思います。（中尾睦宏）

## 次号予告（第62巻・第4号）

### 原著

一般住民における循環器疾患危険因子の認知度とその関連要因

NIPPON DATA2010 ……………永井雅人, 他

### 研究ノート

水道直結式ミスト発生装置の維持管理方法について……………濱武通子, 他

慢性期外傷性頸髄損傷者におけるセルフマネジメントの確立の過程に関する質的分析

……………大河内彩子, 他

精神障がい者家族ピア教育プログラムの実施プロトコル遵守に関する尺度開発フィデリティ尺度

……………蔭山正子, 他